

『一生懸命』幻の新座市議会報告第157弾!



2018年2月28日発行

睡眠負債!

新座の中学生達が睡眠負債に陥っていることは155弾で紹介しました。これを書いているのは2月の初旬です。私立高校入試の真っ最中であり、県立高校入試の直前です。その時期の受験生にも「課題提出」が課せられているのですから、異常としかいいようがありません。(昔はなかったんですよ..)

「新座の中学生には学力格差がある」と教育長は議会で認めています。できる子達の集団と基礎学力がない子達の集団の2つの集団があると認めているのです。その結果、嘗ては県でトップクラスだった学力が県の平均をかなり下回っているという事態に陥っています。(それなのになんで続けますかねえ...)

「課題提出」は全ての生徒に平等に求められます。「出さないと内申は下がるよ」「出さないと成績がつかないこともあるよ」と脅かされれば、やらない訳にはいきません。この「課題」は不登校の子や相談室登校の子達にも出されるのですから本当に悲惨です。

進学塾に通って、膨大な量のテキストをやっている子にとって、この「課題提出」は受験の邪魔でしかありませんし、基礎学力がない子にとってみれば、その基礎をやり直す妨げになってしまうのです。

テストはどの子にも同じ問題でなければなりません。全ての生徒に同じ課題を提出させる意味は何なのでしょう。その課題も「問題集」「授業ノート」「ワーク」「自主学習ノート」と書いて提出するものばかりです。書く＝時間がかかる訳で...子ども達の悲鳴が聞こえてきます。脳科学が発達してきた今、子ども達には色々な「勉強法」を教えたいところです。どの勉強法を選択するかは子どもたちの自由です。

少なくとも、勉強はどこでもできるし、色々な方法でインプット・アウトプットできます。大事なことは脳に記憶することで、ノートやプリントに記憶させることではありません。特に若い先生達には記憶するには「色々な方法」があることを教えて欲しいものです。

書く＝時間がかかる→辛いでは勉強は苦痛にしかありません。睡眠負債で脳の機能が低下するなか、必死に頑張る子ども達が可哀そうです。



二月の川掃除にひょっこり登場したためぐです。二中最後の卒業生もこんな可愛い子のお母さんになっていました。完全におじいちゃん顔の僕です。

たかやんのプロフィール



1954年、港区青山生まれ。新宿区立西戸山中学校卒。超がつく悪ガキが中二で最高の先生、友達と出会って人生が180度変わる。テニスで新宿区のチャンピオンになり、偏差値も40→63→75と急上昇。テニスで都立石神井を選択する。北海道大学庭球部を経て1977年、新設校の新座五中に赴任。3年の担任となる。五中、六中ではテニスに燃えるが、実は「部活人間」ではなく「クラス人間」だった。98年退職し、「たかやん塾」を開設。現在は石神三丁目の自宅で小中学生と共に学んでいる。

写真は教え子の美紀。2016年、木村俊彦と二人で「市民と語る会」を結成し、主に教育問題に取り組んでいる。「町内会への補助金」に対するしつこい質問で、前市長は市の広報を全戸配布にすることを決めた。好きな言葉「経世済民」(世の中をよく治めて、民を救う)「一生懸命」は20年間書き続けた学級通信の名前。本名は(たかむらともや)

たかやんの応援団 で 検索

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 新しい議席



新しい議場で新しい議席になりました。議席番号は14番になりました。古い庁舎の議席よりかなり狭いのですが、一番端の席ですので、全体が見渡せていい感じの席です。議場でパソコンが使えるようになりました。質問しながら、答弁をそのまま打ち込み、記録していくことになりそうです。

③ 新しい机

新庁舎の5階に引っ越し、新しい控室に入りました。前よりもかなり狭いし、窓も小さく天井の蛍光灯の数も少ないので、かなり暗い控室です。

下の写真が新しい控室の新しい机です。実は中古なのですが、鍵がかかるようになったので、いい感じです。机の前にある絵は全て空(次男)が小学生の低学年の時に描いた絵です。

この絵を見ていると、暗い控室も少し明るい感じになるから不思議です。

僕らのように「市長野党」と言われる会派にとって議会というのは結構、生き辛い世界ですので、目の前に息子の絵が飾ってあると、元気が出てきて(負けてたまるか!)という気持ちになるのです。



③ 中学生たちの声

今回の一般質問では、中学生たちの声を議会に届けようと思っています。今の中学生たちが学校でどんなにストレスを感じながら生きているのか、中学生たちの生の声を議会に届けたいと思っています。意味のない課題提出だけではないのです。その1つに「部活ハラスメント」があります。

部活動の顧問に体罰・暴言を繰り返されて、部活に行けなくなり、学校にも行けなくなる。部活の中で苛めがあっても、顧問はなにもしてくれず、その結果、学校に行けなくなってしまう。顧問に直接体罰を受けていなくても、いじめを傍観されたのでは、虐められているのと同じです。

どんなに元気な子でも日常的に「死ね」とか「糞」「死んどけ」「消えろ」「失せろ」「あほ」「ばか」「すべては俺が決める」そんなことを言われ続けたら、心が壊れて当たり前です。特に「一度始めたことは続けること」「途中で辞めるな」と親に言われて育った真面目な子ほど、苦しくなります。

苦しい子達に僕の話をして。中学1年生の1学期、僕はバスケット部にいました。小学生の頃から代々木の体育館でオリンピック選手にコーチをされていたのです。バスケット部に入るのは当たり前のことでした。ところが6月に大怪我をします。足首の骨折です。休み時間に憧れていた女の子に呼び出されて、舞い上がって時間を忘れ、授業に遅れそうになって階段を飛び降りたのです。それが予想以上に高い場所で・・・着地に失敗。松葉杖生活になりました。1か月後、代々木の体育館で行われた全日本とUCLAとの親善試合のハーフタイムに僕はコートに立っていました。僕は何も出来ませんでした。仲間たちの動きに全くついていけなくなっていたのです。僕はバスケをやめました。そして、2学期僕はバレエ部に入ります。入ったばかりの僕は試合に出してもらえず、それに頭にきてやめてしまいます。

そして3学期、友達に誘われてテニス部に入ります。12歳の冬のことでした。それから50年以上、僕はテニスが続けています。高校も大学もテニスで選択しました。そして、素敵な先生や先輩たちに出会ったのです。テニスをはじめたことで教師になり、沢山の教え子たちにも出会えました。今は、あの時バスケをやめてよかった! そう思っています。